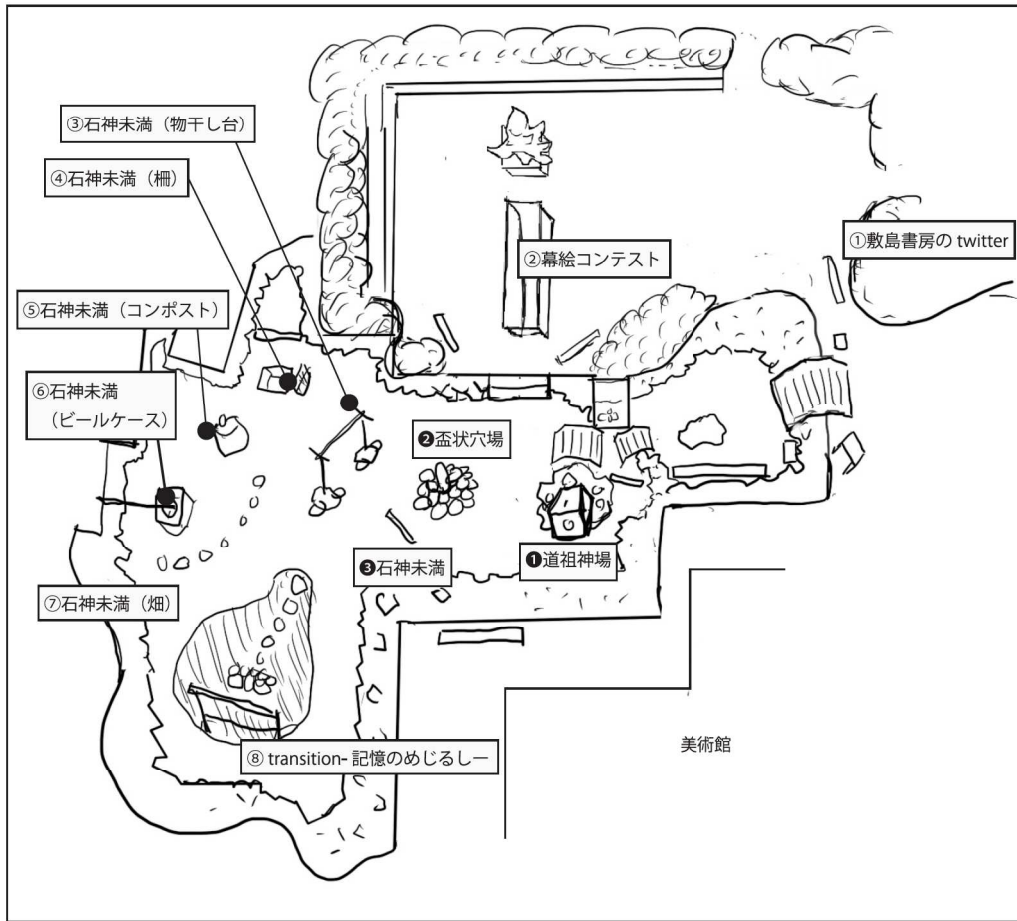


いしのまつりば



まつりばの案内

道祖神の公園は、山梨特有の道祖神の信仰が生まれた背景や道祖神から生まれた表現や文化に巻き込まれることを目的とした道祖神のための公園です。

道祖神の公園には、「道祖神場」、「盃状穴場」、「石神未満」という3つの遊び場があります。

①道祖神場

外からいい感じの石を持ってきて祀ることができる場所

②盃状穴場

石で叩いて石にいい感じに穴をあけることができる場所

③石神未満

石をいい感じに動かして遊ぶことができる場所

展示案内

「いしのまつりば」では、道祖神の創造性をテーマにした展示を開催しています。道祖神や石の神が生まれる起源の仮説としての「石神未満」や、ハレとケや集落のコミュニティとの繋がりだけでなく新たな丸石神や道祖神と人との関係、道祖神が生み出す多様な表現の連鎖を感じていただけたら幸いです。

①敷島書房のtwitter

甲斐市の一線宣好さんは、世界した父が1970年に開業した書店「敷島書房」を2008年に受け継ぎ営んでいる。収入の大部分が父が残した配達販路である。ライフワークとして民俗学を研究している一線さんは、配達の最中眺める景色を、民俗的歴史的な意味合いも含み再発見し、もともと営業目的で始めたTwitterで風景写真にコメントを添えて投稿するようになった。それまで一線さんにとって精神的な負担だった配達業務の意味合いも代わり、投稿をみて一線さんに会いに訪れるお客さんも増えてきた。自身の配達業務と現代的な意味での道の神としての道祖神が融合し、新たな道祖神と個の関係が敷島書房には築かれている。

②幕絵コンテスト

出品作品：

《種をまく人》

NPO法人虹の谷

《共存 in やまなし》

北杜市立泉中学校美術部

他2作品タイトル作者不明

江戸時代から明治初頭にかけて甲府のまちなかで行われていた道祖神祭では10m以上の長さにもなる幕絵を歌川広重など有名絵師に依頼し、厄除けの意味もこめて店の軒先に飾っていた。2007年より甲府商工会議所は、その風習にあやかり、「幕絵コンテスト」を開催し、作品を公募し、現代の甲府のまちなかに幕絵飾りを復活させた。

③石神未満 (物干し台)

④石神未満 (柵)

⑤石神未満 (コンポスト)

⑥石神未満 (ビールケース)

⑦石神未満 (畑)

山梨の丸石神が、いい感じの石を神として祀ることだとすると、いい感じでない普通の石でもいい感じに活用されている様は、石神未満といえないだろうか。山梨には多様で魅力的な石神未満が溢れており、そのことが石を祀る文化の土台を形成していると考え。今回フィールドワークで見つけた石神未満をいくつか再現展示している。QRコードを読むと元の写真を見ることができる。

⑧ transition

— 記憶のめじるし —

広瀬和弘さんの写真連作の一枚。広瀬さんは南アルプス市の職員として、南アルプスユネスコエコパークの推進を牽引してきた。近年になって故郷の山梨市の笛吹川で丸石を見つけたことがきっかけで、移設されることもあるが、変わらない丸石道祖神と、移ろいゆく故郷の景色の対比を撮影するようになった。現在通信制の美術大学にも通い、卒業制作として本作品は準備されている。

transition - 記憶のめじるし -

広瀬和弘

私たちの日常は絶え間なく移り変わっている。あたりまえにあったものが気づかないうちになくなったり、新しい何かに生まれ変わったとしても記憶が上書きされるだけだ。

しかし丸石は違った。誰が置いたのかさえ分からないけれどちゃんと居場所を与えられてずっとそこにある。日常という川底で今もじっとたたずんでいるのだ。ふだんは見向きもされず放っておかれても何かの時には人々のよりどころになる。それでもいい。

そして丸石は私のなつかしい日常をも呼び覚ましてくれているようだ。私はそんな丸石たちの居場所を訪ねてみようと思っている。